プレスリリース

報道関係者各位

2025 年 5 月 7 日
AIM 株式会社（Alpha Intelligence Manifolds, Inc.）

AIM、ITEM2025 にて「DeepXray」が医療機器部門第 2 位を獲得
AI による骨粗鬆症診断支援が国内外の医療関係者より高評価

【展示会受賞概要】

台湾発の AI 医療スタートアップ・AIM 株式会社（Alpha Intelligence Manifolds, Inc.、以下 AIM）は、2025 年 4 月 1 1 日～1 3 日にパシフィコ横浜にて開催された国内最大級の医用画像機器展示会「ITEM2025 (International Technical Exhibition of Medical Imaging)」関連誌「Rad Fan Plus」の「エキスパートが選ぶ ITEM of the Year 2025」において、同社の AI 骨粗鬆症診断ソリューション「DeepXray™ Spina, Coxa」（台湾 FDA 承認済、米国 FDA 及び日本薬機法申請計画中）が医療機器部門で第 2 位に選出された。
同賞は、展示製品の中から医療・放射線分野の専門家に選出されたものである。
選出理由として、東北大学病院 AI Lab の小林智哉助教は、「日常的に撮影される簡単な検査で骨密度を評価できることで、骨粗鬆症の早期診断と将来的な骨折リスク低減への貢献が期待される」とコメントしている。

【製品概要：「DeepXray™シリーズ」について】

「DeepXray™シリーズ」は、骨粗鬆症および変形性関節症といった整形外科はじめ内科、産婦人科、在宅医療等領域の慢性疾患を対象とした X 線 AI 診断支援ソリューションであり、特に骨折のリスクが高いとされる脊椎および股関節の骨密度を、一般単純 X 線画像から迅速かつ高精度に評価可能とする。
同技術は、CT や DXA といった高額な検査機器を必要とせず、既設の一般 X 線撮影装置を活用することで、医療現場の検査導入負担を大幅に軽減できる点が特徴である。今後の導入を見据え、大規模医療機関のみならず、中小規模の医療機関や健診、市村町の検診の現場においてもこの導入のしやすさ且つ精度の高さは精密検査の普及を推進し、医療アクセス向上による地域医療の底上げにも寄与することが期待されている。

【高齢化社会における早期スクリーニングの必要性】

日本においては、高齢化の進行に伴い骨粗鬆症による要介護リスクが深刻化しており、地域医療・健診領域においても、早期スクリーニングがますます重要になってきている。
こうした背景を受け、AIM はコニカミノルタ株式会社と連携し、既存の X 線撮影システムにおける AI 解析ソリューション提供の検討を進めている。今回の ITEM2025 では、同ソリューションを AI 技術紹介として共同出展し、多数の医療従事者および機器メーカーから高い関心が寄せられた。

【大学病院・大手メーカーからの反響】

ITEM2025 期間中には、キヤノン、富士フイルム、島津製作所といった国内大手機器メーカーに加え、東北大学病院、九州大学病院、長崎大学病院などの大学病院関係者からも具体的な問い合わせが寄せられており、今後の臨床研究展開・技術導入に向けた連携が期待される。

AIM は今後も、AI を活用した画像診断支援技術を通じて、高齢化社会に適応した AI 医療技術の開発と社会実装を推進し、医療現場の課題解決に寄与していきたいと考えています。
地域医療・健診領域へ幅広く採用されることで、日本の健康寿命延伸に貢献してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

AIM Japan 株式会社
Email：goto@aimfolds.com
Web　：https://www.aimfolds.com/

◎Rad Fan Plus: ITEM of the Year 2025 医療機器部門第 2 位受賞記事

エキスパートが選ぶ! この製品 1位から10位まで 2025

ITEM of the Year

今年もイチオシ製品を各先生にあげていただきました。どれもよりすぐりのものばかりです。迷ってしまうかも知れませんが、ぜひご購入の一助になれば幸いです。

第1位

United Imaging Healthcare
uMR Ultra (薬機法未承認)

ここがイイんです!

RSNA 2024で筆者が注目したのが、本製品である。「uAIFI・LIVE」という機能を搭載しており、高いスルーレートとマルチチャンネル、AI再構成などの技術の結果、T1・T2強調画像の高画質を維持しながらリアルタイムで動態を観察できる次世代のMRIである。超音波(US)では骨やガスの影響を受けるため観察が困難な領域でも、MRIならば影響を受けず被ばくもなしに広範囲な動態評価が可能となり、関節運動や嚥下機能の解析、perfusion解析の精度向上に寄与する可能性がある。また、USでは評価が難しい深部臓器の動態解析にも有用と考えられ、複数のコントラストで評価することで、より詳細な病態理解に貢献する可能性がある。USのリアルタイム性とMRIの高画質を兼ね備えた本製品は、診断・治療計画の新たな選択肢となるだけでなく、将来的な臨床応用の拡大が期待される。

第3位

ICST
静脈可視化装置
ベインキャスS

ここがイイんです!

本製品は、近赤外線技術を用いた静脈可視化装置であり、皮膚表面にリアルタイムで血管走行を投影することで、静脈路確保の成功率向上をサポートする。診療放射線技師の業務拡大により、静脈路確保が可能となったことから、本製品の需要が高まる可能性がある。放射線検査や造影剤投与が必要な場面で、静脈確保の迅速化は検査効率の向上や患者の負担軽減にもつながる。また、ベインキャスSは小型・軽量で持ち運びが容易であり、可視目視出来ない静脈の80%以上を見つけ出すことが可能である。本製品は画像保存機能などが付帯していることから比較的高価(45万円程度)であるが、10万円台の静脈可視化装置も登場しており、導入コストを抑えた選択肢も広がっている。静脈確保の効率化と精度向上を実現し、診療放射線技師の新たな業務領域においても有用なツールとなるだろう。

第2位

Alpha Intelligence Manifolds, Inc.
DeepXray Spina, Coxa
(薬機法申請計画中)

ここがイイんです!

本製品は、AI技術を用いてX線画像から骨密度を推定する革新的なシステムである。従来の骨密度測定(DXA法)は、専用の装置が必要であり、コストや検査時間の制約があった。しかし、本製品は腰椎(DeepXray Spina)や骨盤(DeepXray Coxa)のX線画像から骨密度を推定可能なため、追加の検査を必要とせず、より手軽に骨密度を評価できる。特に、高齢化社会において健康寿命の延伸には骨密度の管理が重要な指標となることから、本技術の導入は臨床現場に大きな変革をもたらす可能性がある。簡便な検査で骨密度を評価できることで、骨粗鬆症の早期診断や治療介入が促進され、将来的な骨折リスクの低減にも寄与するだろう。

第4位

Fujidenolo Solutions Co., Ltd.
Sonic DICOM

ここがイイんです!

2023年にも本誌で紹介した本製品であるが、改めて評価する。Googleアカウントで簡単に登録でき、無料トライアルでお試し可能である。本製品は、遠隔読影だけでなく、症例報告会や研究会での活用にも適している。クラウド上でのアクセスが可能なため、複数の施設間での症例共有がスムーズに行え、診断の質向上や教育への活用が期待される。さらに、研究開発の場面でも有用であり、AIを活用した画像解析や診断支援技術の検証に活用できる。オンプレミス版も提供されており、セキュリティ要件に応じた柔軟な運用が可能。シンプルな操作性と手軽な導入コストで、診断業務から研究開発まで幅広く活用できるクラウドPACSとして、改めてその価値が認識された。

8

◎ITEM2025 当社講演風景